

その昔、おひんは「甘酒」として、好んで飲まれていました。調味料として広く使われるようになったのは、江戸時代の後半です。流山でおひんがさかんに作られるようになった理由として、①原料の米と水を手に入れやすかった。②江戸川から船で出荷できる。③たぐさんの方が住む江戸が近い。という3点が考えられます。流山の「白みん」は江戸でも大人気でした。

<5>人気者・おひん

現在、千葉県の県庁は千葉市にあります。明治時代の初めに流山の村々は、まず葛飾県の一部となります。江戸川沿いで交通が便利だったことから、流山に県庁が置かれました。続いて、葛飾県をもとにして印旛県が誕生します。明治6年に千葉県となるまで、県庁は流山に置かれていました。博物館の外に、県庁があったことを記念する「葛飾県印旛県史跡の碑」が建てています。

<8>県庁があった？

人や荷物を船で運んでいた時代、江戸川と利根川をつないで近道をつくらせたいと願う人びとがたぐさんいました。その願いをかねえたのが利根運河です。工事にはお金がかかるので会社を作り、エンジニアの技師ビルネルに設計や監督を頼みました。工事はほとんど人力で進められ、約2年かかれました。長さ約8.5kmの利根運河ができたことで、約40kmの近道になりました。

<9>利根運河

明治、大正、昭和の中ごろまでは、外国との戦争がくり返された時代です。流山からも多くの方が戦争に行きました。流山には、糧秣廠という、陸軍で使う馬のえさを扱う場所がありました。今の平和台駅の近くです。糧秣廠には、えさとなる干草を納める倉庫や、荷造りのための工場、働く人たちのための施設もありました。

<11>戦争の時代

<1>人はいつから住んでいた？

流山に人が住み始めたのは、今から3万年前といわれています。どうしてそんなことがわかるのでしょうか。それは今の初石の近く、若葉台遺跡の3万年前の地層から、当時の人が使った石器が見つかったからです。流山市内ではたくさんの遺跡が発見されています。それぞれの遺跡や、遺跡から出土した物を調べることで、遠い昔のこともわかるようになるのです。

<0>新選組って？

新選組のリーダーだった近藤勇と、サブリーダーだった土方歳三。各地での戦いに敗れて流山にやって来ました。どうして流山に来たのか、はっきりとはわかりません。仲間をつれた二人が流山にいたのはほんの数日間だったが、村は大騒ぎになった、ということが、当時の人の日記から読みとれます。流山でも負けてしまった二人は、その後、別々の道を歩むことになりました。

はくぶつかん
ものしりブック
(1)

ゆかのシールの番号をさがして
もっとくわしく見てみよう！

これできみも
はくぶつかん博士だ！
また遊びに来てね。

流山市立博物館

1枚の紙で製本してみよう

カッターで切る



やまおい



たにおい



1枚の紙に印刷して、つくってみてね！